

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	関西学院大学
整理番号	B23
構 想 名	国際性豊かな学術交流の母港「グローバル・アカデミック・ポート」の構築

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
（コメント） 事業期間全体において、大学全体での取組みとなるよう、全学のビジョンや戦略、経営計画等に SGU 事業の内容を組み込むことで、継続性の観点も踏まえ非常に優れた実施計画の下に、展開されたものとなっている。具体的には、創立 150 周年（2039 年）を見据えた超長期ビジョン・長期戦略と、その具体策をまとめた経営計画が策定され、120 ある実施計画の構成において、3 分の 1 が本事業構想に関するものとなっている。その実現のためのガバナンス改革等を通じて、事業期間後を見据えた目標額の財源確保も達成するなど、十分な経営資源の下で継続的な事業展開が進むよう整備されている。 成果面においては、順当に協定大学・機関の拡大を図ったことで送り出しや受入れ学生数を伸長させ、当初目標設定した「協定に基づく海外派遣学生数日本一」を事業期間中に二度達成するなど、目に見える量的な成果を残している。その他の支援体制においても、私立総合学園の強みを生かし、院内や継続校の高校生に対しての取組みや、SNS を活用した情報提供の充実、先輩への相談体制等による留学動機付けに加え、資金面や渡航の安全面も考慮した制度・システム構築に努めたことは高く評価できる。アクティブラーニングや PBL 科目の導入、シラバス改訂により、学生の一週間あたりの授業外学修時間が増加したことや、留学前のオンラインメディアの積極活用などの工夫により語学力が強化されたことも、日本人学生の留学を促進するのに一役買ったと考えられる。 学生だけでなく教職員向けの支援に関しても、帰国後に英語による授業を担当することを前提とした教員制度や、海外に赴いての研修・制度が職員にも整備されている。それらは、国際通用性を見据えたユニークなものであると評価しうる。 一方で、本構想の主要プログラムである「ダブルチャレンジ制度」の参加学生数が目標を大きく下回った点は、その要因の解明を含め、課題として認識すべきであろう。今後、財源確保に留意した上で、未達項目の改善に向けた取組強化を期待したい。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	